

測結果が直接 IBM カードにパンチされています。写真観測の乾板もこれまでの投影法による測定をやめて、すべて自動的に測定記録する装置の作成に着手しており、その製作費が 25 万ドルとか、それでも製作会社は自信がないらしく、ストランドやマイクセル (Mikshell) が赤ん坊にさとよすうに、ここはああしなさい、そこはああしなさいと手を取り足を取り教えている状態だそうです。ここでの連星観測はアメリカの 90% 以上を占めているそうです。非常に興味深かったことは、測定室の前に各測定者の測定精度及び毎月の乾板の測定枚数がグラフになって示されており、今月は誰れが怠けたか一目瞭然となっており、測定枚数が少ないとボスと呼び出されしかれるとか、気の弱い測定者にとってはノルマのようなものようです。でもこの天文台での実視連星の測定精度は、他の天文台の結果に比して群を抜いているようですし、自動測定装置が完成すればその測定精度は他の天文台より一桁よくなると期待されている様です。その他 15 吋の屈折望遠鏡があり、これは広角で小惑星や彗星の写真観測をしています。この部門はアリゾナ州のフラッグスタッフ (Flagstaff) に支所を持ち、40 反射望遠鏡があります。又ここには現在 60 吋反射望遠鏡を据附中で、これは焦点距離 50 フィート、主鏡の直径約 62 吋の fused quartz 製で、石英を材料としたものでは世界最大だそうです。この 60 吋は最近の自動装置技術の粋を集めたものだそうです。60 吋の模型を前にして自慢するストランド博士の顔が今でも目に浮びます。この望遠鏡の特徴は反射望遠鏡であるに拘らず、従来の概念を破

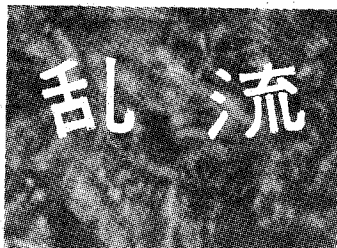
って視差の測定に使われることで、完成の暁には非常に暗い星の視差の決定に最初使われるそうです。この部門には他に、銀河系外星雲の種族の分類及び銀河系外星雲の腕の研究に没頭しているシャープレス (Sharpless) 博士と、食変光星の研究に精力的な努力を傾けており、私の 6 ヶ月の滞在中の日本語へのノスタルジャーをなぐさめてくれ、アメリカンフットボール、ボーリング等アメリカ生活を存分に楽しませてくれた趙博士がいます。

天文台の図書室は蔵書 5 万冊以上といわれ、天体位置関係の本は完備しており、航空宇宙局に滞在中の東京天文台の青木君の姿をよくみかけました。

最後に私の滞在中色々親切にしてくれ、資料を提供して下さいった職員の方々の親切は非常に感銘深いものでした。特に横須賀に 3 年間滞在了れたとかで、屢々官舎に招待してくれ、全部日本の品で埋れた部屋へ招じてくれた、海軍天文台の長であるバスケット大佐夫妻、星雲の IBM カードを東京天文台に送るために、色々骨折って下さったクレメンス (Clemence) 博士とダンカム (Duncombe) 博士、ワシントンの子午環の資料を次から次へと私の机の上に積み重ねて、息つく間も与えなかったスコット、アダムスの両氏、色々便宜を与え、手を借してくれた 6 吋 7 吋両部門間の若い天文家達、天文台滞在中の最終日、握手し、車の中から手を振って次々に別れを惜しんでくれた職員達、その夜天文台の一室で酒をくみ交し、出発を名残り惜しんでくれた若い天文学者達等、私の滞在を有意義且つ楽しいものにしてくれた人々に感謝したい気持ち一杯です。

☆岡山に来山の両氏 レンバンより帰途途上の L. H. Aller (アメリカ・カリフォルニア大学) 及び G. Haro (メキシコ・トナンチントラ国立天文台) の両氏は、4 月 12 日夜、岡山天体物理観測所を訪問、大小両望遠鏡、附属諸装置、展示館、などを末元善三郎氏(東京天文台分光部)らの案内にて見学、ヘルクレス座新星の分光乾板などを中心に歓談、翌日は桜花と桃に彩られた小雨けふる鴨方の里に別れをつげた。辺幅を飾らぬ Aller 氏の風格、スペインなまりの親し味にあふれた Haro 氏の英語は、所員一同をいたく感服させた。なお Tonantzintla とはメキシコのインディオ(土着民)語で「太陽の母の土地」という意味、また Haro はスペイン語風に「アロ」と発音す

る。さすれば岡山への Foreign Visitor としては 1 番が昨夏来日のエジプト・ヘルヴァン天文台の「アリ」氏、2 番が「アラ」氏、3 番が「アロ」氏となると、4 番目に来る



のは「アレ」氏にちがいない……とこれは岡山雀のさえずりである。

(G)

★ストルーベの計 オットー・ストルーベ (Otto Struve) は、4 月 6 日サンフランシスコで肝臓病が悪化

して世を去った。ストルーベは 1897 年、ロシアのハリコフに生れたので、本年 65 才、1921 年ヤーキス天文台に入り、1932 年ヤーキスの台長となり、その後パークレーのカリフォルニア大学教授を経て、最近までグリーンバンクの国立電波天文台長であった。氏は天体分光学特に近接連星のスペクトルで多くの仕事をしたが、1952 年より 55 年まで IAU の副会長をつとめ、アメリカの天文学界では視野のひろい指導的な学者であった。(Kh)

☆人の動き 1957 年以来東京天文台長の任にあった宮地政司博士は 3 月末で定年で退任され、代って広瀬秀雄教授が新任された。また東大天文学教室の鍋木政岐教授は、3 月末で定年のため退かれた。